

平成 23 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【9月募集】入学試験問題

講 座	経済理論・統計、比較経済、政策科学、 経営学、会計学、組織経済学、 地域公共政策コース
専門科目	会計学

以下の問 1 及び問 2 の両方に答えよ。問 1 は解答用紙の第 1 ページと第 2 ページに解答し、問 2 は解答用紙の第 3 ページと第 4 ページに解答すること。

問 1 「リース取引に関する会計基準」に基づいて、以下の設問に答えなさい。

(1) ファイナンス・リースとは何か、説明しなさい。また、ファイナンス・リースの借手側及び貸手側の会計処理について説明しなさい。

(2) 法人税法 64 条の 2 第 2 項に、「内国法人が譲受人から譲渡人に対する賃貸（リース取引に該当するものに限る。）を条件に資産の売買を行った場合において、当該資産の種類、当該売買及び賃貸に至るまでの事情その他の状況に照らし、これら一連の取引が実質的に金銭の貸借であると認められるときは、当該資産の売買はなかつたものとし、かつ、当該譲受人から当該譲渡人に対する金銭の貸付けがあつたものとして、当該譲受人又は譲渡人である内国法人の各事業年度の所得の金額を計算する。」という規定がある。

この規定に示されたリース取引の内容について償却性固定資産を例に挙げながら説明するとともに、なぜこのような規定が設けられたのか、規定が適用される前と後とで借手側及び貸手側の損益がどのように変化するかを考察しながら説明しなさい。

問 2 以下の設問に答えなさい。

(1) 「原価計算基準」に規定されている、原価の本質について説明しなさい。

(2) 損益分岐点分析や直接原価計算では、原価態様によって分解される固定費および変動費が利用されるが、この時に適用される関連操業範囲について説明しなさい。

以 上